

ブダペスト巡検 —過去から脱皮する街—

かつて社会主義体制下に置かれていたブダペストが 1990 年代以降、それまでの過去と決別して急速な変化を遂げるさまは、まさに脱皮と呼ぶにふさわしいでしょう。企業の進出や外国資本の投資もめざましく、歴史的旧市街地を中心にして建築物をはじめ道路や地下鉄などの交通インフラ、商業・サービス施設などの整備・充実が進んでいます。これにより社会主義時代以前の歴史的景観が整備されており、今や東ヨーロッパ屈指の観光都市になっています。

一方、歴史的旧市街地に隣接してエスニック空間が広がっています。第二次世界大戦前には巨大なユダヤ人社会を誇っていたこの町の特色は、今もヨーロッパ最大のシナゴグなど独特の景観に残されています。ただし、近年の再開発事業によって彼らの伝統的景観はかなり失われつつあるのも事実です。また、ブダペストには現在、多くのロマが居住していますが、彼らが集住する地区には居住環境の整備が極端に遅れた住宅が多く、整備が急がれています。なお近年、この地区に中国人が流入している事実も興味深いところです。

いずれにせよ、ブダペストの市街地を理解する上で、かつて社会主義時代に形成された都市の特徴と、改革後の新しい変化を確認することが肝要です。この巡検では、社会主義時代のモニュメントや住宅団地、CBD 機能の充実や観光地化（建造物、温泉など）が進む歴史的な中心地をめぐる一方で、深刻なインナーシティ問題を抱えるロマ集住地区に目を向けることにより、ダイナミックな変化を遂げつつあるブダペストの景観をつぶさに観察することができました。



ブダペストのブダ地区にて：観光スポットで知られるワイン博物館